

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点到に係る状況）

本校は目的に沿い準学士課程のアドミッション・ポリシーを「金沢高専の求める人」と題し、入学案内、学生募集要項等の刊行物、ウェブサイトにも明示し公表している（資料 4-1-①-1：入学案内 金沢高専2012、資料 4-1-①-2：学生募集要項、資料 4-1-①-3：ウェブサイト）。また、高校からの編入生、社会人入学については本校のウェブサイトにも明示すると共に、編入学募集要項、社会人編入学募集要項に記載し、希望者に周知している。

資料 4-1-①-1

入学案内

平成24年度 学生募集要項抜粋

金沢高専の教育実践目標
 「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれるエンジニアの育成」

金沢高専の求める人
 1. エンジニアとして専攻に専攻したい人
 2. 基礎学力を伸ばし、科学技術に専攻できる人
 3. 英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
 4. 将来にも積極的に挑戦する意欲がある人
 5. 誠実で、他人を思いやることのできる人

I. 募集人員
 1. 入学定員
 電気電子工学科 40名
 機械工学科 40名
 工学（IT）情報工学科 40名

II. 推薦入学試験
 1. 出願資格
 平成24年度入学希望の中学生か、前年度から入学希望の高校生か、推薦された推薦校の1年生か、かつ中等教育課程修了者か、かつ推薦校の推薦状を提出し、入学許可を得る。
 2. 出願方法
 出願資格に入学希望の希望する学科の推薦状を提出し、推薦校の推薦状を提出し、入学許可を得る。

III. 一般入学試験
 1. 出願資格
 高等学校卒業または同等の学力を有する者。
 2. 出願方法
 学力試験（国語・理科・英語）と面接試験（面接による選抜的選考）を実施する。合格者は入学試験合格通知書と併せて入学許可状を提出する。

IV. 出願手續書
 推薦入学試験、一般入学試験の出願書類は、下記のとおりとなります。

区分	募集受付期間	試験日	試験場	出願要項
推薦入学試験	1月24日(土)～1月25日(日)	1月24日(土)	富山(本校)・石川(小松) 9時～12時(試験場)に準拠していただきます。	1月27日(金)18:00に本校で試験結果を公表し、合格者は推薦状を提出する必要があります。
一般入学試験	1月24日(土)～1月25日(日)	1月25日(日)		

(出典 入学案内 金沢高専 2012)

学生募集要項

平成25年度 学生募集要項

金沢高専の教育目標

「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」

金沢高専の求める人（アドミッションポリシー）

- (1) エンジニアとして社会に役立ちたい人
- (2) 基礎学力を持ち、科学技術やものづくりに興味がある人
- (3) 英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
- (4) 何事にも積極的に挑戦する意欲のある人
- (5) 誠実で、他人を思いやることのできる人

I 募集人員

1. 入学定員	電気電子工学科	40名
	機械工学科	40名
	グローバル情報工学科	40名

II 推薦入学試験

1. 出願資格 平成25年3月中学校卒業見込みの者で、本校への入学を強く希望し、心身ともに健康であり、次の条件のいずれかを満たし、かつ中学校長の推薦を受けた者。
 - ① 中学校在学中の学業成績が、中以上の者
 - ② 各種の資格・特技を持ち、勉学に意欲的、かつ積極的な者
2. 選考方法 出願書類と数学基礎力確認テストおよび面接により、総合的に選考します。なお、面接では志望動機、ものづくりへの興味および将来の目標等について対話を行います。

【注】推薦入学試験で合格判定とならなかった場合に一般入学試験の受験を希望する者は、推薦入学試験出願時にその旨を入学願書の一般入学試験受験希望コード欄に記入することにより、一般入学試験を受験できます。この場合、新たに出願書類を提出し、かつ検定料を納める必要はありません。推薦入学試験の選考結果は1月18日(金)午後、推薦した中学校長へ通知します。

III 一般入学試験

1. 出願資格 次のいずれかに該当し、心身ともに健康な者。
 - ① 中学校を卒業した者、または平成25年3月卒業見込みの者
 - ② 中等教育学校の前期課程を修了した者、または平成25年3月修了見込みの者
 - ③ 学校教育法第57条、および学校教育法施行規則第95条の規定に該当する者
2. 選考方法 学力試験(国語・理科・英語・数学)および出願書類、面接により総合的に選考します。なお、面接では志望動機、ものづくりへの興味および将来の目標等について対話を行います。

IV 出願手続等

推薦入学試験、一般入学試験の出願手続等は、下記のとおりとします。

1. 出願先 金沢工業高等専門学校 事務局
〒921-8601 石川県金沢市久安2-270 TEL 076-249-1080
窓口の受付は、日曜・祝日を除く午前9時から午後5時まで、ただし、土曜日は正午までとします。郵送の場合も、推薦入学試験は1月10日(木)午後5時までに、一般入学試験は1月22日(火)午後5時までに必着のこととします。
2. 出願書類
 - a. 入学願書(本校所定の用紙A)
 - b. 検定料「郵便振替払込受付証明書」(本校所定の用紙B。検定料は払込みを原則とするが、これを持参する場合も郵便振替用紙に住所、氏名を記入してください)
 - c. 受験票(本校所定の用紙B)
 - d. 入学志願者調査書(本校所定の用紙C。またはこれと書式・サイズが同一のワープロで作成した用紙で、志願者が卒業生の場合は全学年、在校生の場合は3学年2学期もしくは後期12月までについて、出身中学校長が作成したものを提出してください)
 - e. 推薦書(推薦入学試験の出願者のみ提出必要。本校所定の用紙D。またはこれと書式・サイズが同一のワープロで作成した用紙で、出身中学校長が作成したものを提出してください)

(出典 学生募集要項)

ウェブサイト



(出典 金沢工業高等専門学校ウェブサイト)

本校の教職員には、校長がFD研修会で教育上の確認事項として、アドミッション・ポリシーを説明し周知を図っている（資料 4 - 1 - ① - 4 : FD研修における教育理念等再確認のための校長教育資料）。また、体験入学、オープンキャンパス及び入試説明会など学生募集に関係する行事の運営には全教職員が参画しており、中学生やその保護者等の参加者への説明や案内を通じてアドミッション・ポリシーの理解を深めている（資料 4 - 1 - ① - 5 : 入試説明会）。

FD 研修における教育理念等再確認のための校長教育資料

FD 研修における教育理念等再確認のための校長教育資料

23年度 #1FD 研修資料

23. 7. 28

校長

金沢高専の教育理念・教育目的・教育目標などについて

- 1、建学綱領(学校法人金沢工業大学建学綱領)
人間形成、技術革新、産学協同
- 2、高専の教育目的(学則第1条)(学校教育法第115条)
高等専門学校教育は、教育基本法及び学校教育法に則り
「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」
- 3、教育の実践目標(イーグルブック):卒業生のあるべき姿
21世紀をにやう、こころ豊かで、創造性に溢れたエンジニアの育成
- 4、各専門工学科の教育目的(学則第6条2)
電気電子工学科は、
電気・電子工学及び情報分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の
養成を目的とする。
機械工学工学科は、
機械工学分野に関する専門的能力を有する実践的技術者の養成を目的とす
る。
グローバル情報工学科は、
情報分野に関する専門的能力及び国際的なコミュニケーション能力を有する
実践的技術者の養成を目的とする。
(根拠:高等専門学校設置基準第3条)
高等専門学校は、学科ごとに、人材の育成に関する目的その他の
教育上の目的を学則等に定めるものとする。
- 5、各専門学科の具体的な教育実践目標(学生便覧の「カリキュラムの特徴」)
電気電子工学科は、
電気、電子に関する知識を習得し、回路設計、計測制御、更にコンピュータ
や情報、通信ネットワーク技術を身につけ、電気・電子情報分野を融合できるエ
ンジニアの育成を目指します。(便覧 P.16)
機械工学科は、
ものづくりに必要な機械工学の基礎知識を習得し、機械を制御するために必
要な電気やコンピュータに関する技術を身につけ、メカトロニクスに強いエン
ジニアの育成を目指します。(便覧 P.20)
グローバル情報工学科は、
コンピュータとソフトウェア開発の知識を習得し、高度情報社会の基礎となる
情報技術と、実践的な英語コミュニケーション力を身につけたエンジニアの育
成を目指します。(便覧 P.24)
- 6、アドミッションポリシー(募集要項)(各項目独立)
 1. エンジニアとして社会に役立ちたい人
 2. 基礎学力を持ち、科学技術に興味がある人
 3. 英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
 4. 何事にも積極的に挑戦する意欲のある人
 5. 誠実で、他人を思いやることのできる人

(出典 FD 研修資料)

入試説明会



金沢高専入試説明会

平成24年度の金沢高専入試説明会が11月19日(土)に行われた。参加は、中学生本人、保護者のみでももちろん可能だが、保護者と共に足を運ぶ中学生が多数みられた。

多くは9時半までに受付を済ませ、学校紹介及び入学試験についての説明や解説を受けた。始めに山田弘文校長が学校概要について話され、続いて電気情報工学科5年生2人が、金沢高専で5年間過ごした教育成果を示しながら電気電子工学科を紹介した。機械工学科とグローバル情報工学科の内容や英語教育について各学科長らが話した後、入試の出題範囲などの説明が行われた。

その後、学習塾「学習会」講師の北園克彦氏が、金沢高専の過去の入試問題をもとに解答のポイントや入試までの学習法を解説し、参加者たちは皆、真剣に耳を傾けている様子であった。

同時に、午前9時30分から午後1時の間、フリープログラムとして学科紹介コーナー（電気電子、機械、グローバル情報）、進路・キャリアデザインコーナー、工学英語協同学習紹介コーナー、ロボコン・プロコンコーナー、何でも相談コーナーを設け、希望者へのキャンパス案内、



山田高専校長の話を聞く参加者

部活動見学、アパート見学も行った。各コーナーでは教育内容やアパート、奨学金などについて積極的に質問をする保護者や中学生の姿が見られた。食堂でのデザートバイキングではケーキの売れ行きが好調で、保護者の方にも大変喜んでいただいていたようだった。

実施したアンケート（回答者は中学生50% 保護者50%）は、入試説明会を知ったきっかけとして「中学での配布資料」を挙げた人が最も多かったが「体験入学」と「オープンキャンパス」も合わせて38%であり、これらの参加者が多く来場してくれていることが分かった。

参加しようと思ったきっかけとしては、中学生の約77%、保護者68%が「受験したいと思ったから」と回答しており、本気度がうかがえた。学校説明、入試説明、懇話会による過去の入試解説に対しては全体的に高評価で、分かりにくかったとの回答はゼロであった。



1 学科紹介コーナーを見る参加者たち

学科紹介をする電気情報工学科の学生



興味のある学科としては、保護者、中学生、共に何らかの学科に興味を示している。総数でほぼ同数だが、独り言うなら中学生にはグローバル情報、電気電子工学科、保護者には機械工学科が人気であった。

自由記述欄では「入試説明や過去問解説が分かりやすかった。聞けて良かった」「高専、学科、取り組みなどについて良く分かった」「先生や学生の説明がとても分かりやすかった」「高専に入りたいと思った」などといった意見が大半であり、概ね満足いただけたのではと感じている。

なお、心配された人出だが、あいにくの天候の中、続々と参加者が集まり、最終的には中学生90人、保護者93人の合計183人と、昨年を上回る結果となった。今回の入試説明会の参加者数が、平成24年度入学試験の受験者数を

超える指標となるため、関係者一同、受験者の増加を期待したい。最後に、協力いただいた募集委員の女子職員と学食の皆様にも感謝申し上げます。

(高専 河原仁美)

＜入試説明会のスケジュール＞	
9:30～10:20	学科紹介及び入試試験について (3階合同講義室)
	・学科紹介(電気電子、機械、グローバル情報)
	・英語教育/留学プログラムについて
	・平成24年度入学試験について
10:30～11:00	過去入試問題解答と解説 (3階合同講義室)
11:30～12:00	ランチ&デザートバイキング (21号館1階ラララ)

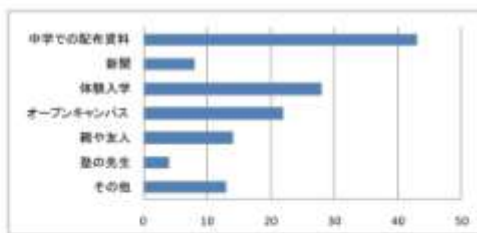


図1. 入試説明会を何で知りましたか？ (複数回答可)



図2. 参加しようと思ったきっかけは？ (複数回答可)



図3. どの学科に興味を持ちましたか？ (複数回答可)

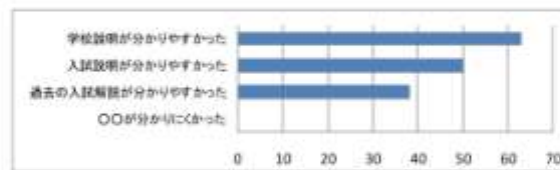


図4. 入試・学校説明会の感想 (複数回答可)

(27)

(出典 旦月会報 平成24年1月号 P26-27)

本校の趣旨と特徴をPRするために、教員が県内の中学校約90校を訪問し、アドミッション・ポリシーを掲載した入学案内と学生募集要項を参照しながら、校長先生または進路担当者に説明を行っている。県外の中学校へは、平成23年度は富山県、福井県、滋賀県、京都府、大阪府の約1,000校に送付し、平成24年度は前年度に愛知県、新潟県、長野県、岐阜県を加え、約2,300校に送付している。その他、中学校で行われる学校説明会への参加、体験入学の実施、オープンキャンパスの実施、入試説

明会の実施等により広報活動を展開し、上記資料を配付し説明している（資料4-1-①-6：刊行物の発行数）。

資料4-1-①-6

刊行物の発行数

H23年度 発刊物の発行数

	媒体名	数量
1	2011 学生便覧	1,000
2	体験入学ポスター	1,500
3	KTC HOT NEWS	500
4	体験入学パンフ	15,000
5	英語パンフ	19,000
6	学校新聞Vol.5	3,000
7	専 No. 83	800
8	塾用チラシ	2,800
9	平成24年度学生募集要項(抜粋)	1,000
10	平成24年度編入学募集要項(抜粋)	100
11	平成24年度社会人編入学募集要項(抜粋)	100
12	第3回CLE2シンポジウムポスター	2,400
13	第3回CLE2シンポジウムチラシ	20,000
14	工学・英語協同学習パンフレット(増刷)	300
15	入学案内2012 第1回目	100
16	入学案内2012 第2回目	900
17	入学案内2012 第3回目	10,000
18	クリアファイル	3,000
19	オープンキャンパスポスター	1,500
20	オープンキャンパスパンフ	15,000
21	学校新聞Vol.6	3,000
22	平成24年度学生募集要項	3,500
23	入試説明会ポスター	1,500
24	入試説明会チラシ	15,000
25	アパートチラシ	3,000
26	クリスマスカード	2,500
27	専 No. 84	800
28	学校新聞Vol.7	3,000
29	専 No. 85	800

配付学校数

(23年度配布学校数)		1,092校
石川県	79校 + 15校	
富山県	83校	
福井県	81校	
滋賀県	106校	
京都府	201校	
大阪府	527校	2,424校
(24年度配布学校数(23年度+以下の学校))		
愛知県	437校	
静岡県	262校	
新潟県	240校	
長野県	195校	
岐阜県	198校	

(出典 高専事務局資料)

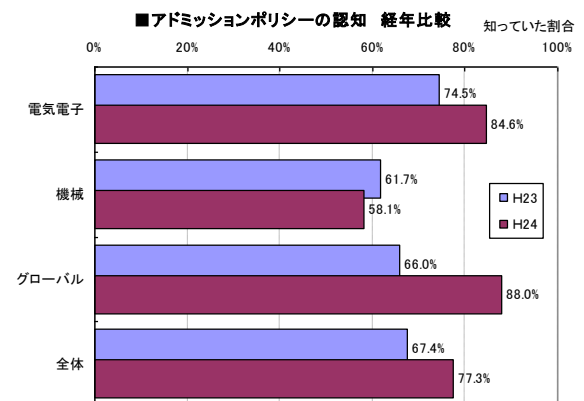
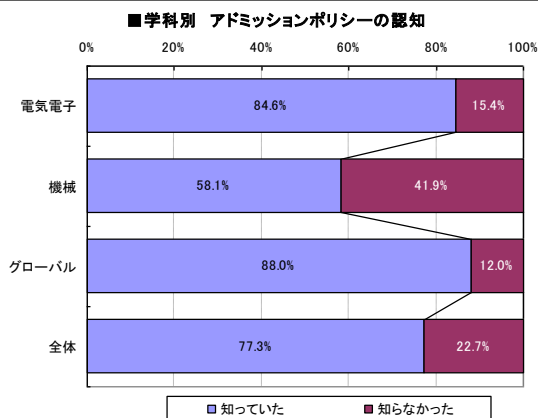
これらの活動により新入生のアドミッション・ポリシーの認知度は資料4-1-①-7：新入生のアドミッション・ポリシーの認知度のとおり新入生の77%が知っていると回答している。

資料4-1-①-7

新入生のアドミッション・ポリシーの認知度

■アドミッションポリシーの認知

- 前回から「金沢高専の求める人材(アドミッションポリシー)」について知っていましたか?という質問を加えているが、全体では77.3%が「知っていた」と答えており、「知らなかった」は22.7%であった。
- 「アドミッションポリシーの認知」に関して学科別の比較をすると、「知っていた」は「グローバル」で88.0%、「電気電子」で84.6%と多かったが、「機械」では58.1%と30ポイントほど低く、大きな差が見られた。
- 経年変化は「知っていた」の割合で比較をしているが、全体では67.4%から77.3%へと9.9ポイント認知度が上がっていた。学科別には「グローバル」が22ポイント、「電気電子」が10.1ポイント上がっていたが、「機械」は3.6ポイント下がっていた。



(出典 KTC 教育評価委員会 新入生アンケート)

(分析結果とその根拠理由)

本校ではアドミッション・ポリシーを明確に定め、刊行物やウェブサイトにも明示することで、社会へ公表している。またFD研修会や行事を通じて教職員へ周知をしているといえる。

観点4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校の準学士課程1年生の入学者選抜は、推薦入学試験と一般入学試験がある。推薦入学試験は、中学校長が推薦する生徒に対し、数学基礎力確認テストと面接を行い、推薦書、調査書を併せて総合的に選考している。一般入学試験は国語・理科・英語・数学の学力試験と面接を行い、調査書を併せて総合的に選考している。これらの入学試験の出願資格と選考方法は学生募集要項に明示している(資料4-2-①-1：学生募集要項(推薦・一般))。

学生募集要項（推薦・一般）

平成25年度 学生募集要項

金沢高専の教育目標

「21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成」

金沢高専の求める人（アドミッションポリシー）

- (1) エンジニアとして社会に役立ちたい人
- (2) 基礎学力を持ち、科学技術やものづくりに興味がある人
- (3) 英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
- (4) 何事にも積極的に挑戦する意欲のある人
- (5) 誠実で、他人を思いやることのできる人

I 募集人員

1. 入学定員	電気電子工学科	40名
	機械工学科	40名
	グローバル情報工学科	40名

II 推薦入学試験

1. 出願資格 平成25年3月中学校卒業見込みの者で、本校への入学を強く希望し、心身ともに健康であり、次の条件のいずれかを満たし、かつ中学校長の推薦を受けた者。
 - ① 中学校在学中の学業成績が、中以上の者
 - ② 各種の資格・特技を持ち、勉学に意欲的、かつ積極的な者
2. 選考方法 出願書類と数学基礎力確認テストおよび面接により、総合的に選考します。なお、面接では志望動機、ものづくりへの興味および将来の目標等について対話を行います。

[注] 推薦入学試験で合格内定とならなかった場合に一般入学試験の受験を希望する者は、推薦入学試験出願時にその旨を入学願書の一般入学試験受験希望コード欄に記入することにより、一般入学試験を受験できます。この場合、新たに出願書類を提出し、かつ検定料を納める必要はありません。

推薦入学試験の選考結果は1月18日(金)午後、推薦した中学校長へ通知します。

III 一般入学試験

1. 出願資格 次のいずれかに該当し、心身ともに健康な者。
 - ① 中学校を卒業した者、または平成25年3月卒業見込みの者
 - ② 中等教育学校の前期課程を修了した者、または平成25年3月修了見込みの者
 - ③ 学校教育法第57条、および学校教育法施行規則第95条の規定に該当する者
2. 選考方法 学力試験(国語・理科・英語・数学)および出願書類、面接により総合的に選考します。なお、面接では志望動機、ものづくりへの興味および将来の目標等について対話を行います。

(出典 学生募集要項)

高校からの編入学試験は、出願資格を満たし高等学校長の推薦を受けた生徒に対し、コミュニケーション能力をはじめとした人物像の確認と、学力を確認するための口頭試問の面接を行い、推薦書、調査書を併せて総合的に選考している。編入学試験の出願資格と選考方法は学生募集要項に明示している。（資料 4-2-①-2：編入学生募集要項（編入学））。

資料 4-2-①-2

編入学生募集要項（編入学）

平成 25 年度 編入学生募集要項

金沢高専の教育目標

『21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成』

金沢高専の求める人（アドミッションポリシー）

- (1) エンジニアとして社会に役立ちたい人
- (2) 基礎学力を持ち、科学技術やものづくりに興味がある人
- (3) 英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
- (4) 何事にも積極的に挑戦する意欲のある人
- (5) 誠実で、他人を思いやることのできる人

I 募集人員

1. 編入学定員	電気電子工学科	第4学年	若干名
	機械工学科	第4学年	若干名
	グローバル情報工学科	第4学年	若干名

II 編入学試験

1. 出願資格 高等学校に在学し、次の①～③の条件をすべて満たし、心身ともに健康であり、かつ学校長の推薦を受けた者。

- ① 平成25年3月志望学科に関連する科を卒業見込みの者

電気電子工学科	：	電気、電子、情報系の科
機械工学科	：	機械系の科
グローバル情報工学科	：	情報系の科（商業系高校の情報系を含む）
- ② 本校への編入学を強く希望する者
- ③ 高等学校在学中の学業成績が中以上の者

2. 選考方法

出願書類と面接の結果を総合して行う。

面接では、志望動機や将来の目標等について対話を行う他、数学（数学基礎、または数学Ⅰ）、志望学科に関連する下記の専門科目について質問することがある。

電気電子工学科	：	電気基礎、情報技術基礎
機械工学科	：	機械設計
グローバル情報工学科	：	情報技術基礎、または情報処理

(出典 学生募集要項)

社会人の編入学試験は、出願資格を満たした志願者に対し、1,000字程度の作文とコミュニケーション能力をはじめとした人物像の確認と、学力を確認するための口頭試問の面接を行い、調査書を併せて総合的に選考している。社会人編入学試験の出願資格と選考方法は学生募集要項に明示している。(資料4-2-①-3：社会人編入学生募集要項(社会人編入学))。

資料4-2-①-3

社会人編入学生募集要項(社会人編入学)

平成25年度 社会人編入学生募集要項

金沢高専の教育目標

『21世紀を担う、心豊かで、創造性にあふれたエンジニアの育成』

金沢高専の求める人(アドミッションポリシー)

- (1) エンジニアとして社会に役立ちたい人
- (2) 基礎学力を持ち、科学技術やものづくりに興味がある人
- (3) 英語でのコミュニケーション能力を高めたい人
- (4) 何事にも積極的に挑戦する意欲のある人
- (5) 誠実で、他人を思いやることのできる人

I 募集人員

1. 編入学定員	電気電子工学科	第4学年	若干名
	機械工学科	第4学年	若干名
	グローバル情報工学科	第4学年	若干名

II 編入学試験

1. 出願資格 次の①～③の条件をすべて満たし、心身ともに健康な者。
 - ① 平成25年3月31日時点で、企業または官公庁等の技術系の職域において2年以上の勤務経験を有する見込みの者
 - ② 高等学校において、志望学科に関連する科を卒業した者

電気電子工学科	：	電気、電子、情報系の科
機械工学科	：	機械系の科
グローバル情報工学科	：	情報系の科(商業系高校の情報系を含む)
 - ③ 本校への編入学を強く希望する者
2. 選考方法 作文(1,000字程度)、出願書類及び面接の結果を総合して行う。
面接では、志望動機や将来の目標等について対話を行う他、志望学科に関連する技術的事項について質問することがある。

(出典 学生募集要項)

全ての入学試験で面接を行っており、面接前に教務主事が全教員にアドミッション・ポリシーとこれを基に作成した面接質問を説明し周知したうえ、面接で本校への進学動機や意欲の確認を行っている(資料4-2-①-4：入学試験の面接実施要領)。

入学試験は「金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて」を定め、入学者選抜にかかる運営組織と手順に従い、公正に実施している（資料 4-2-①-5：金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて）。

資料 4-2-①-4

入学試験の面接実施要領

入学試験の面接実施要領

（はじめに）

本校の教育理念（学びの文化、歴史、志）や教育環境（学びを構成する環境、人々、手段）に共感し、自らが自己研鑽できる「目的」を見つけ出す、若しくは、その糸口となる「目標」を導き出し、その目的や目標に向かって「挑戦」できる人材を見出したいと考えています。すなわち、「本校の教育に共感し、自己実現の意欲を継続できる人材」を選抜し、「新時代を切り開き得る人材」、「社会に貢献できる人材」を養成したいと願っています。

本校は、学園の理念やビジョンを継承し、自らの目的や目標に向かって、果敢に挑戦し努力する人の集団でありたいと考えています。そのような学生を確保するため、本校の学生募集要項には、「面接では、志望動機、ものづくりへの興味や将来目標等について対話を行う。」と明記されています。

については、下記の点を配慮し面接を実施願います。

記

1. 受験生に歓迎の意を表し、暖かい雰囲気ですべてして下さい。
2. 緊張のため、平素滑らかに出る言葉もすぐには出ない場合があります。初めての印象ですべてを判断しないよう、時には深呼吸をさせるなど余裕をもって進めて下さい。
3. 面接時間は、1名約 10 分とします。
4. 面接では、学生募集要項の趣旨に沿って対話して下さい。

（以下 非公開）

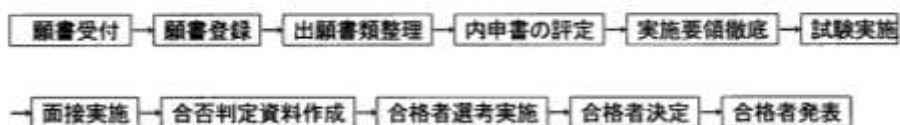
（出典 教務委員会資料）

金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて

○金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて

(昭和 63 年 4 月 1 日施行)

1. この取扱いは、金沢工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 16 条の規定に基づき入学試験及び合格者選考に必要な事項について定める。
2. 入学試験に係る業務は、次の手順をもって実施される。



3. 入学試験は、別表 1 の金沢工業高等専門学校入学試験運営組織をもって実施される。
 - (1) 入試本部は、校長が長となり入学試験に関する業務全般を統括する。
 - (2) 校長は、入学試験を適正に実施するため、入試本部に教務主事を責任者とする入試運営委員会を設置する。
 - (3) 入試運営委員会は、入学試験を円滑に運営するため次の業務を行う。
 - イ. 願書の受付け、整理
 - ロ. 入試問題の作成及び確認
 - ハ. 入試実施のための会場設営及び運営資料の作成
 - ニ. 筆記及び面接試験の実施
 - ホ. 試験の採点及び確認
 - ヘ. 合否判定資料の作成及び確認
 - ト. 合格者の選考
 - (4) 入試運営委員会は、合格者の選考結果をとりまとめ、校長に提出する。
4. 校長は、入試運営委員会より提出された選考結果について、学務会議に諮ったうえで合格者を決定し、発表する。
5. 推薦入学試験の不合格者が、引き続き一般入学試験の受験を希望するときは、一般入学試験の出願手続を行うことなく受験できることとする。この場合、当該受験者の受験料は免除する。

附 則

1. この取扱いは、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

(出典 学校法人金沢工業大学規則集)

(分析結果とその根拠理由)

全ての入学試験において面接を実施し、進学動機や意欲の確認を行っており、アドミッション・ポリシーに沿った、適切な入学者選抜となっている。また「金沢工業高等専門学校入学試験制度の取扱いについて」に従い適切に実施されている。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れを検証するため、新入生は入学後速やかに統一したオリエンテーションテストと新入生アンケートを実施して現況把握に努め、教育に反映している。また、学級担任は努めて早期に学生と面談を実施し、身上把握に努めている。

平成17年度入学者までは推薦入学試験において数学の学力試験を実施していたが、平成18年度入学者からは人間性を重視した選考を目的に、数学の学力試験から小論文に変更した。その結果、工学感覚にやや欠ける学生の入学を受け入れる結果となり、補習等を実施しても、退学者の増加につながった。そこで平成21年度入学者からはアドミッション・ポリシーで求める基礎学力を確認するために、数学基礎力確認テストを導入した（資料4-2-②-1：入試選考方法）。

資料 4-2-②-1

入試選考方法

平成20年度 学生募集要項

金沢高専の教育実践目標

金沢高専の求める人

I 募集人員

1. 入学定数	機械情報工学科 40名
	機械工学科 40名
	国際コミュニケーション情報工学科 40名

II 推薦入学試験

III 一般入学試験

IV 出願手続等

V 入学手続

VI 納入金

学年	入学	1学期	2学期	3学期	合計	注
1	81,000	91,000	48,000	82,000	302,000	入学定数10名
2	11,000	11,000	11,000	11,000	44,000	入学定数10名

平成24年度 学生募集要項

金沢高専の教育実践目標

『守』社会貢献者、心豊かで、創造性に富む技術エンジニアの育成

金沢高専の求める人

- (1) 志が明確で、自主的に学習できる人
- (2) 基礎学力を定着し、科目科目に理解できる人
- (3) 実習でのコミュニケーション能力を高める人
- (4) 科専にも積極的に取り組む意欲のある人
- (5) 誠実で、他人を思いやることのできる人

I 募集人員

工学定員	電気電子工学科	40名
	機械工学科	40名
	ソフトウェア情報工学科	40名

II 推薦入学試験

平成24年度3月入学推薦試験は以下の通り、本校へ入学推薦されること、心豊かに健康で学ぶ、次の条件を満たすことが必要とし、かつ中学校長の推薦が必要である。

- (1) 中学校長推薦の推薦状発行、4以上の条件
- (2) 自身の特性・特長を述べ、他校に推薦状、入学推薦状を提出

III 一般入学試験

次の条件を満たすこと、心豊かに健康で学ぶ。

- (1) 中学校長推薦した者、または平成24年度3月入学推薦状の発行
- (2) 卒業後希望する職業に関する試験を完了した者、または平成24年度3月入学推薦状の発行
- (3) 中学校長推薦状を提出し、および入学推薦状発行推薦状の提出を完了した者

IV 出願手続等

推薦入学試験、一般入学試験の出願手続等は、下記のとおりとなります。

V 入学手続

1. 出願期間：2月28日(月)まで(当日午後5時)まで(推薦入学試験、推薦入学試験は2月28日)
2. 入学試験：①筆記試験、個人推薦に関する書類審査
3. 入学料：①本人の氏名および性別を明記した推薦状(推薦状提出時)
4. 入学定員：2月28日(月)まで、午限10時

VI 納入金

入学料(推薦入学は別途) 約20万円

区分	学年	1年	2年	3年	4年	5年
授業料		21,200円	21,200円	44,000円	27,200円	27,200円
施設利用料		10,000円	10,000円	10,000円	10,000円	10,000円

VII 個人情報

本校は推薦入学試験、入学試験、入学料納入金納入(約20万円)を目的として、個人情報を収集・利用しています。

VIII 個人情報の取扱いについて

お預かりした個人情報は、入学推薦状および入学料納入の目的を以て利用いたします。また、個人情報の取扱いに関する事項は本校募集要項を参照し、お問い合わせください。

IX お問い合わせ

金沢工業高等専門学校 事務局 電話 0761-80011 金沢工業高等専門学校 〒920-8585 石川県金沢市南町1-1-1 電話 0761-80011 1F 2F

(出典 学生募集要項)

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーに沿う学生の受入の検証として退学者数を指標としており、年間の退学者数が4%未満で推移しており、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れが行われているといえる。しかし平成23年度の1年生の退学者が4.9%と4%を超えたため改善が必要と認識している。

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

本校の平成20年度以降の実入学者数は資料4-3-①-1：入学者数の状況のとおりであり、国際コミュニケーション情報工学科が平成20年度までの5年間、定員割れの状況にあった。その原因として当該学科の目的が十分中学校及び生徒に伝わっていない点にあると考え、平成21年度に学科名称をグローバル情報工学科に変更すると共に、学生募集方法を変更し中学校及び生徒の理解を深めた。また、1学科あたりの入学定員を45名から40名に変更し、3学科合計の入学定員を120名とした。

資料 4-3-①-1

実入学者数

入学者数(5月1日現在)

単位:人

	平成20年度			平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
電気情報工学科	34	3	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
機械工学科	44	0	44	33	1	34	42	0	42	47	1	48	42	0	42
国際コミュニケーション情報工学科	29	7	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電気電子工学科	-	-	-	27	0	27	38	0	38	45	2	47	36	0	36
グローバル情報工学科	-	-	-	13	8	21	28	10	38	32	14	46	38	13	51
計	107	10	117	73	9	82	108	10	118	124	17	141	116	13	129

(出典 高専事務局資料)

平成17年度から20年度の間、全体の入学定員割れが続いた。この状態を改めるため、平成18年度から、広報資料を学校の詳細な教育内容に変更、全教職員による学校訪問を年2回から3回に増やし、校長による中学校訪問の増加などの取組を行った。しかし直ぐに結果としては現れないため加えて、平成18年度からは、SPP事業を「出前事業」に活用し、工学の専門の立場から本校の教育内容の広報を推進した。同時に情報公表が本校の認知に直結すると考え、平成19年度から「見える化プロジェクト」を設置し、積極的な広報の有り方を検討した(資料4-3-①-2:見える化プロジェクト)。更に平成22年度から、ウェブサイトを全面的に改訂し、中学校の視点で分かり易いデザインと構成にすると共に、本校の教育に関する様々な取組や、学生の様子を積極的に情報発信した。

定員割れが続いた国際コミュニケーション情報工学科について、中学校から見て学科名称と学ぶ内容の不明確さが有ることと、電気情報工学科があり情報工学の名称が二つの学科に付いていて分かり難いなどの意見が有り、国際コミュニケーション情報工学科をグローバル情報工学科へ、電気情報工学科を電気電子工学科へと名称変更を行った。

平成21年度から、学生募集業務の抜本的な改善を図るため、過去に入学実績のある県内69校の中学校長に対し、本校の印象や教育全般に対するヒアリング調査を実施した(資料4-3-①-3:中学校長に対する教育・募集等ヒアリング結果)。また、全教職員を動員した学生募集活動体制を変更し、少数の教職員による募集委員会を設置し、中学校の教職員や生徒の心に触れる対面広報と募集を採ることにした。

見える化プロジェクト

見える化プロジェクト会議

1. 期日 平成 21 年 4 月 7 日(火) 持ち回り会議

2. 内容

入学案内 2010 の内容について(個人面接の意見)

- ・ ページの最初に導入を入れるには良い。1 ページ目は必ず見る部分であり、特にインパクトのある写真などを入れ、目次を角に配置するなど。
- ・ 5 年間の流れを 6 年間に拡大してはどうか。(卒業後も表示する)
- ・ 年間の活動も入れる。特に勉強(工学)ばかりでない表現がいいのではないか
- ・ 使う写真は、以下の部分を気をつけて
在校生を使うこと、カリキュラムなどの写真は実際にそったものを用いること、
- ・ 内容は十分入っているが、見るものにとっては重過ぎないか。ページを減らす方法は無いか。
- ・ 付録としての金沢高専 news もカラーではどうか
- ・ 導入部分に金沢高専のやさしさや Welcome の気持ちを協調する雰囲気が必要でないか(例えば、先生(校長)と学生の交流の場など)
- ・ 専門教育に示されているグローバルという言葉と、学科紹介におけるグローバル情報工学科のグローバルは、中学生にとって一緒に写るのではないかと思う。

(出典 見える化プロジェクト資料)

中学校長に対する教育・募集等ヒアリング結果

平成 21 年 6 月 8 日

金沢工業大学
人事委員長 柴屋 吉郎殿

中学校校長に対する教育・学生募集等に関するヒアリング結果について
金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

(要旨)

中学校校長に面談し、金沢高専の教育・学生募集等に関する忌憚のない意見や感想をヒアリングし、今後の教育並びに学生募集の資を得ることを目的とし、4月～5月の間、中学訪問を実施した。(テーマは事前に電話で通知済)

先ず近在校の 10 校長からのヒアリング結果を学務会議で中間報告し、その感想を参考に合計 56 校長に意見を伺った。(河北と能登は今後回ることにする。)

その結果、本校の内容並びに学生募集に関する広報に関して以下のような回答を得ることができた。

ヒアリング時間は、1 校 20～40 分間程度であった。

(ヒアリング結果の要旨)

- 1、 中学生の興味対象 (優先順)

多くの中学校長は、中学生の興味分野は優先順で

(1) 部活動	(2) 学校行事
(3) 卒業後の進路	(4) 学校の教育内容

であることを述べている。
- 2、 中学生の金沢高専選択の動機
 - (1) 中学 2 年生、3 年生前期で決まっているものが多い。(特に遠方の学生は意思強固)
 - (2) 保護者、先輩、親族の影響を受けている。
 - (3) ロボットコンテスト又はものづくりが好きで決めたものが多い。
 - (4) 中学教員の指導によって受験する者は、相談を受けた後の指導によるものであり、(高専ファン教員による) 積極的な指導は認められない。(言い換えれば中学の進路選択では、教員の学校選択指導がほとんどないことと断言する校長も居る。)
 - (5) 体験入学及び学校見学は、入学する場合の踏み絵と考えられている。
 - (6) 過去の本校の入試に関し、悪評の痕跡が認められた。
- 3、 本校の特色、お勧めどころとして取り上げると有利と見ている事項
 - (1) 高い技術を身に付け、良い就職ができる学校である。

- (2) 卒業後多様な進路が保障されている。
- (3) 資格取得ができ、これが就職に繋がる。
- (4) 付加価値が高く面倒見が良い高专であり、進路が約束されている。
- (5) 金沢工大との連携が良く、推薦編入制度がある。
- (6) 保護者に対する説明を徹底したほうが良い(但し手段の提案無し)。
- (7) S P Pで広報、学生の前に物で示す、作品展示、卒業生派遣など効果がある。

4、本校の学校説明に関する事項

- (1) 中学生にとっては難しく、学校説明文書に文字が多く字が小さい。
- (2) 中学生の興味ある部活や学校行事の事項についての記載が少ない。
- (3) 教育内容などは、中学教員は、学生からの質問があれば読む。中学生が分かる程度に少なめに記述したほうが良い。(指導しないことか?)
- (3) 顔写真等の掲載された学生の出身校が記載されていない場合が多い(中学生の興味は先輩にある。)
- (4) 学校説明会では、なるべく多く資料を渡すほうが良い。
- (5) 受験生は理工系で不得意科目がある傾向にある。入学後の学問分野や教育の特長についての説明は、不安を感じさせない程度としたほうが良い。

5、中学校における学校説明会の開催や保護者の本校への見学会

本校がこのような行事を行いたい又は行っていることを承知していない校長がいて、本校の説明不足を感じた。

この点については、文書で学校長や保護者会長に宣伝すべきものと考えられる。

6、学費の高さ

学費が高すぎるとの意見は、1/6の校長しか出ていない。設備、教育内容を知っている校長からすれば、私学の立場を十分に理解し妥当としていた。

但し、本年度は不況の影響を受け、受験や入学を断念した学生がかなり居ることは事実と述べている。

7、入学試験について

- (1) 推薦入試における数学の筆記試験実施について
 - ほとんどの校長が賛成している。但し、異論がある校長からは、英語を重視するなら英語で受験させるのもよいのではないかとの意見が出た。(中学では英語ができる学生は、数学もできる。)
- (2) 試験実施の時期
 - 良好
- (3) 発表時期

良好

(4) アドミッションポリシー

意見なし。

8、 中学訪問の時期や回数

私学の訪問については、ほとんどの校長が必要性を認めている。今回の訪問ヒアリングは好意をもって迎えられたと確信する。但し、訪問に関しては礼儀を尽くして節度を持って臨む必要が有ることを肌で感じた。中学校長の教育論を引き出し、耳を傾ける必要があり効果も期待できる。

9、 S P Pや地域連携教育活動について

多くの学校で期待している。しかし、時期とテーマについて「押しかけは余り賛成しない」傾向にある。こちらから多くの可能性を示して、中学主体（予算的裏づけや実入りがあることに興味がある）であるほうが望ましいとの意見を述べる校長も居た。

地域連携教育については、構えてもらいすぎでは不本意と感じている。

10、 その他（学校広報行事の公布時期）

従来の公布時期は遅すぎる。中学に対する最も早い高校の公布（入学案内配布）は4月の第2週以内に行われ、4月中に4校が終了している。

今回の夏休み体験入学の5～5月前触れ（配布は6月）は妥当であるとの意見が多い。

(参考資料)

聞き取り調査表	
	平成 21 年 月 4 日
金沢高専に関する聞き取り調査表	
	金沢高専 山田
1	学校名
2	金沢高専に対する率直なご意見
3	金沢高専の受験生を増やすための方策
4	妥当な試験の時期について
5	学生募集案内のパンフレットについて
6	学校説明会の開催について
7	P T Aの高専見学について
8	募集に関する中学訪問の時期や回数
9	S P Pや連携教育活動の予定

(出典 学務会議資料)

このような学科名称の変更、教育内容の積極的な情報発信、教育内容の充実を図った結果、平成23年度以降は入学定員を確保している（資料4-3-①-4：募集施策と入学者の傾向まとめ）。

資料4-3-①-4

募集施策と入学者の傾向まとめ

募集施策と入学者の傾向まとめ

募集年度	学生数		学科の構成・改編等	主な募集活動	備考
	定員	入学者			
H18	135	103	電気情報工学科 機械工学科 国際コミュニケーション情報工学科	全教職員＝募集員、学校説明、体験入学、SPP、出前授業等	
H19		118			
H20	120	82	電気・電子工学科 機械工学科 グローバル情報工学科	募集委員会（熟練者）、学校説明、体験入学、SPP、出前授業、文科省支援事業等	
H21		117			中学聴取・反映、1志望優先
H22		141			CLE ²
H23		131			

（出典 学務会議資料）

編入学生についても近年は1名であり、収容定員を大幅に超えない（資料4-3-①-5：編入学試験の状況）。

資料4-3-①-5

編入学試験の状況

金沢高専の高校卒業生編入学実施状況(4学年編入)

単位:人

H19			H20			H21			H22			H23		
普	工	他	普	工	他	普	工	他	普	工	他	普	工	他
/	0	0	/	0	0	/	0	0	/	1	0	/	0	0

普:普通高校

工:工業高校

（出典 学務会議資料）

これらの取組は、学務会議で企画・実施され、その結果をKTC教育評価委員会で分析し、次年度の改善につなげている。また、近年の学生募集の取組を受け平成24年度から学生募集担当副校長を配置した。

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程では定員割れが続いていたが、平成23年度入学生より定員を満たしており、適正な入学定員を確保できるようになった。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

平成19年度から22年度まで3学科合わせた入学者の定員割れが続いていたが、平成23年度は、すべての学科の定員を満たす入学者を確保できた。それは、学生募集の仕組みの改善により中学生やその保護者らに本校の教育目標や教育内容、その成果の認知度が高まってきていると感じており、本学の改善施策が効果を生み始めたと考えている。

(改善を要する点)

前述の成果はあるものの、志願者の増加に関しては3学科間には温度差があるため、なお一層の募集努力が必要と認識している。

一方、平成23年度の1年生の退学者数は本校が目安としている4%を超えたため、1年生の導入教育の在り方や学生一人一人に向き合う指導方法についての改善は急務であると認識している。

(3) 基準4の自己評価の概要

本校は目的に沿い準学士課程のアドミッション・ポリシーを「金沢高専の求める人」と題し、入学案内、学生募集要項等の刊行物、ウェブサイトにも明示し公表している。また、高校からの編入生、社会人入学については本校のウェブサイトに明示すると共に、編入学募集要項、社会人編入学募集要項に記載し、希望者への周知を行っている。

本校の教職員には、校長がFD研修会で教育上の確認事項として、アドミッション・ポリシーを説明し周知を図っている。また、体験入学やオープンキャンパスなど学生募集に関係する行事の運営に全教職員が参画しており、中学生やその保護者等の参加者への説明や案内を通じてアドミッション・ポリシーの理解を深めている。

入学試験においては、すべての試験で面接を行っており、面接前に教務主事が全教員にアドミッション・ポリシーと面接質問を説明したうえ、面接で本校への進学動機や意欲の確認を行っている。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れを検証するため、新入生に対して入学後速やかに統一したオリエンテーションテストと新入生アンケートを実施して現況把握に努め、教育への反映を図っている。また、学級担任は早期に学生と面談を実施し、身上把握に努めている。アドミッション・ポリシーに沿う学生の受入の検証として退学者数を指標としており、推薦入学試験において数学の学力試験を小論文に変更した時期に退学者が増えたことから、平成21年度入学者からはアドミッション・ポリシーで求める基礎学力を確認するための数学基礎力確認テストを導入した。その結果、年間の退学者数が4%未満で推移しており、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入れが行われているといえる。

平成19年度から平成22年度の間、一部または全体の入学定員割れが続いたため、学校訪問の回数を増やし、SPP事業を活用した出前授業、見える化プロジェクトの発足、中学校長へのヒアリング調査など、広報の在り方について検証と改善を続けている。特に定員割れが続いた国際コミュニケーション情報工学科については、中学校から見てわかりやすくなるように、同じ「情報工学」の名称を持つ電気情報工学科と共に、グローバル情報工学科と電気電子工学科へと平成21年度より名称変更した。それら募集活動の改善の成果として、平成23年度以降は入学定員を確保している。